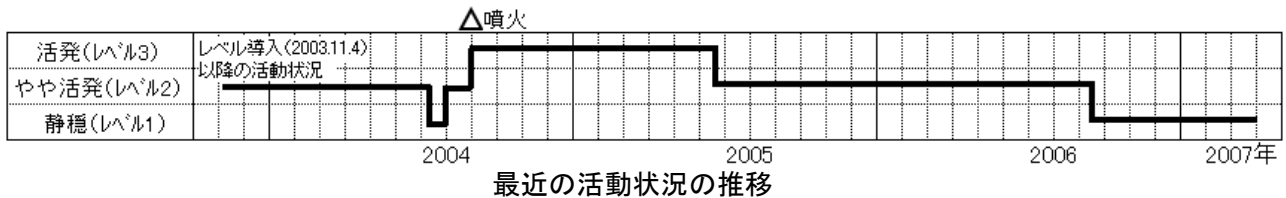


浅間山

○ 火山活動評価：静穏な状況（レベル 1）

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

現在の火山活動度レベルは 1 です。2006 年 9 月 22 日以降、レベル 1 が継続しています。



○ 概況

・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 2－②③④、表 1）

山頂火口からの噴煙活動は引き続きやや活発で、噴煙高度は火口縁上 100～200m で推移しました。

二酸化硫黄の放出量は、7 日に実施した観測では一日あたり 300～800 t と一時的にやや多くなりましたが、27 日に実施した観測では一日あたり 70～200 t と昨年 8 月以降と同様のやや少ない状態でした。

・地震や微動の発生状況（図 2－⑤⑥⑦⑧、図 3、図 5、表 1）

火山性地震の回数は一日あたり 3～25 回とやや少ない状態で経過しました。発生した地震の多くが周期の長い特徴を持つ BL 型地震（波形例は図 5 参照）で、震源は求まっていませんが、山頂火口直下のごく浅い所に発生していたと推定されます。このほか、周期の短い特徴を持つ BH 型地震（波形例は図 5 参照）が発生しており、求まった震源はこれまでと同様に山頂直下の深さ約 1～2 km に分布しました。A 型地震（波形例は図 5 参照）は観測されませんでした。

また、火山性微動も観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 2－⑨⑩）

山体周辺の GPS 連続観測では、特段の変化はありませんでした。このほか、傾斜観測¹⁾や光波測距観測²⁾でも、火山活動の高まりを示すような変化はありませんでした。

- 1) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの注入等により、山体が膨張・収縮した場合に変化が観測されることがあります。
- 2) 光波距離計を用いて山体に設置した反射鏡までの距離を測定し、山体の膨張や収縮による距離の変化を観測しています。



図 1 浅間山 山頂部の噴煙の状況
（3 月 26 日、鬼押出し遠望カメラによる）

※この資料は気象庁のほか、国土交通省利根川水系砂防事務所、東京大学及び独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

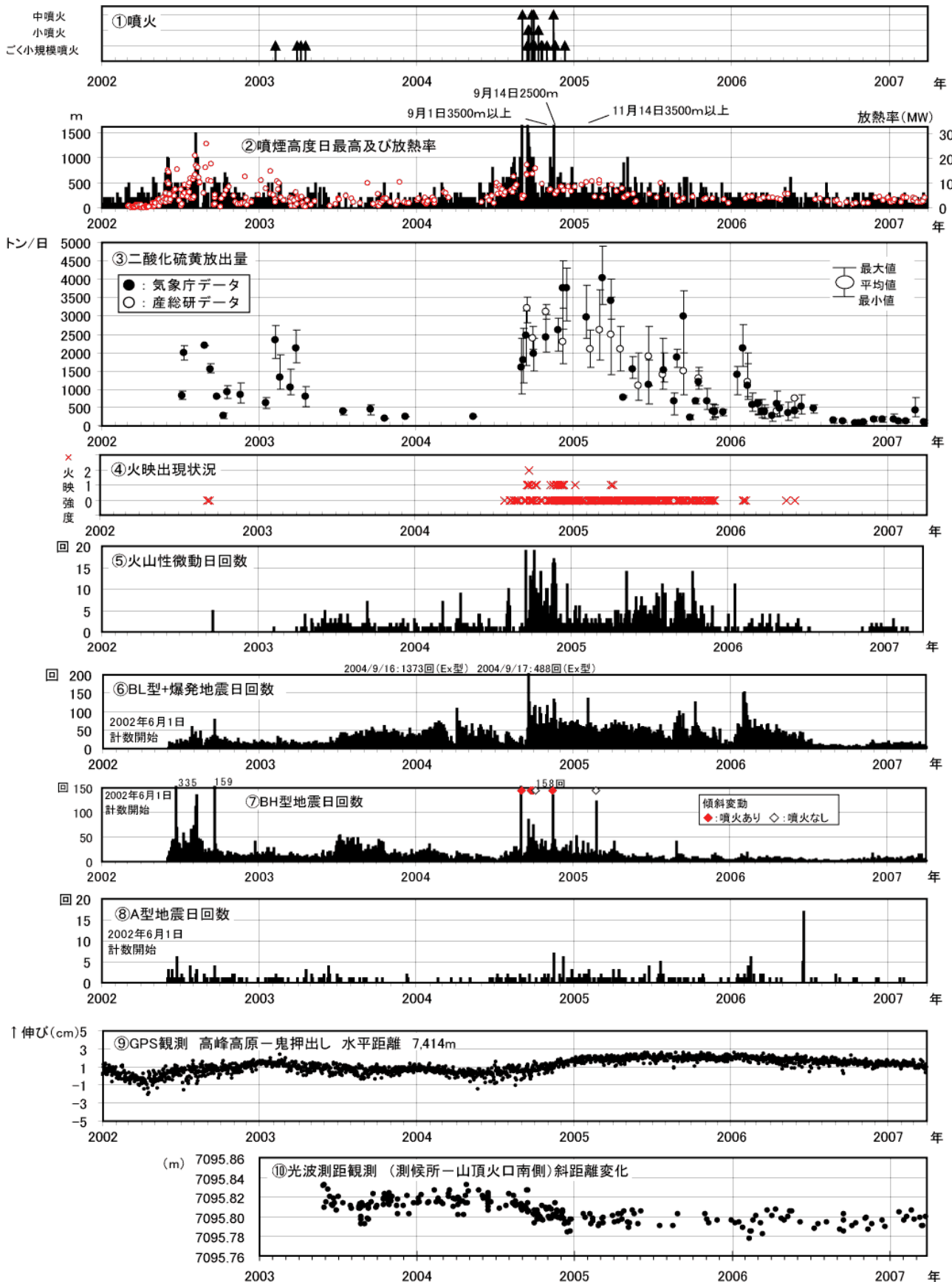


図 2※ 浅間山 最近の火山活動の推移（2002 年 1 月～2007 年 3 月）

⑥⑦⑧ 地震の種類別（図 5 参照）に計数を開始した 2002 年 6 月 1 日からのデータを掲載。

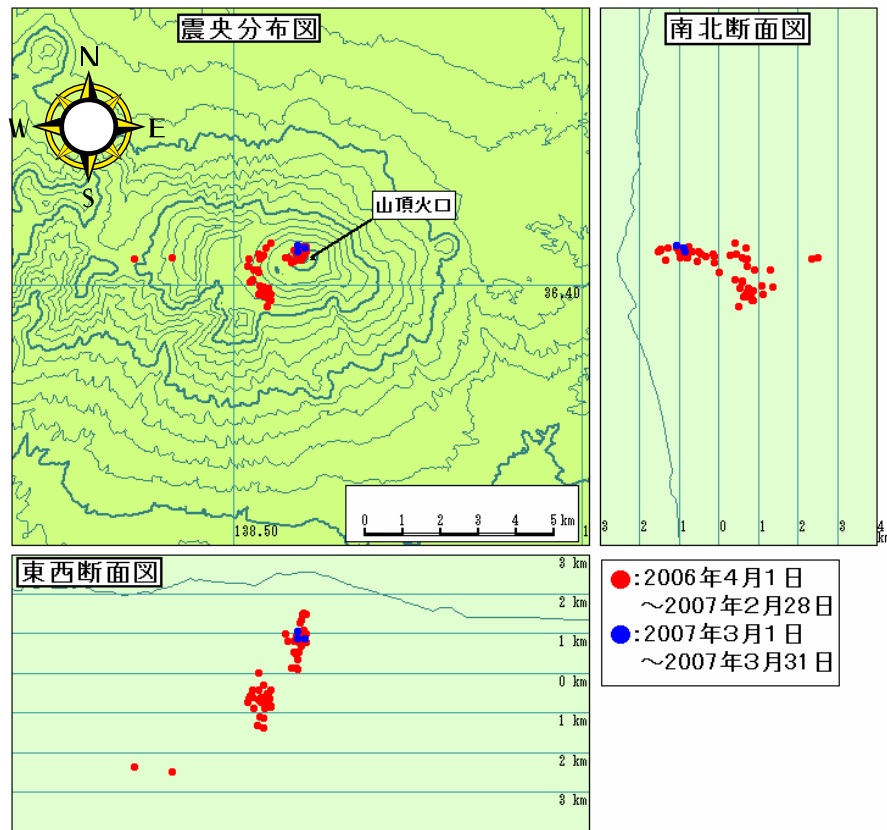


図3※ 浅間山 火山性地震の震源分布（2006年4月1日～2007年3月31日）

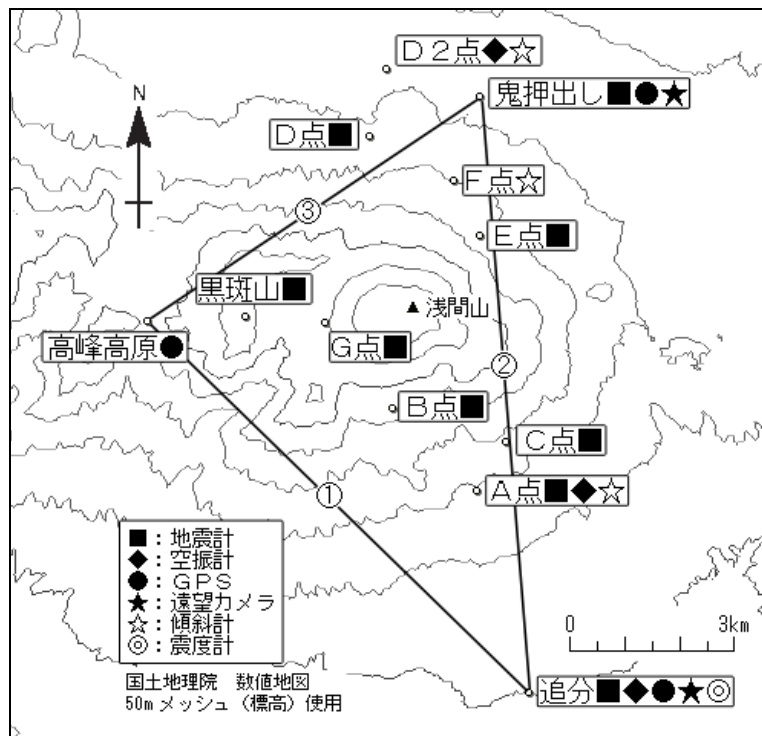


図4 浅間山 気象庁の観測点配置図（小さな白丸は観測点位置を示しています）
GPS 基線③は図2の⑨に対応しています。

表 1※ 浅間山 2007 年 3 月の火山活動状況

	噴火回数	火山性地震の回数 3)						微動回数	噴煙の状況 4)		火映強度 5)	備考
		A型	BH型	BL型	Ex型	その他	地震合計		噴煙高度 (m)	噴煙量		
1日	0	0	7	6	0	0	13	0	100	1	—	
2日	0	0	5	10	0	0	15	0	100	1	—	
3日	0	0	3	8	0	0	11	0	100	1	—	
4日	0	0	6	10	0	0	16	0	200	2	—	
5日	0	0	3	7	0	0	10	0	x	x	x	
6日	0	0	2	4	0	0	6	0	100	1	—	
7日	0	0	2	12	0	0	14	0	100	1	—	SO2放出量: 300-800t/日
8日	0	0	2	5	0	0	7	0	100	1	—	
9日	0	0	4	2	0	0	6	0	200	2	—	
10日	0	0	7	12	0	0	19	0	100	1	—	
11日	0	0	5	9	0	0	14	0	100	x	x	
12日	0	0	2	1	0	0	3	0	100	x	x	
13日	0	0	1	5	0	0	6	0	100	1	—	
14日	0	0	14	1	0	0	15	0	100	1	—	
15日	0	0	13	12	0	0	25	0	100	1	—	
16日	0	0	10	8	0	0	18	0	100	1	—	
17日	0	0	4	17	0	0	21	0	100	1	—	
18日	0	0	9	11	0	0	20	0	x	x	—	
19日	0	0	13	7	0	0	20	0	x	x	—	
20日	0	0	14	4	0	0	18	0	300	x	—	
21日	0	0	7	4	0	0	11	0	100	1	—	
22日	0	0	6	6	0	0	12	0	100	1	—	
23日	0	0	4	8	0	0	12	0	100	1	—	
24日	0	0	5	9	0	0	14	0	100	x	—	
25日	0	0	1	6	0	0	7	0	x	x	x	
26日	0	0	6	8	0	0	14	0	100	1	—	
27日	0	0	5	9	0	0	14	0	100	1	—	SO2放出量: 70-200t/日
28日	0	0	2	11	0	0	13	0	100	1	—	
29日	0	0	1	10	0	0	11	0	100	1	—	
30日	0	0	1	10	0	0	11	0	200	1	—	
31日	0	0	1	6	0	0	7	0	100	1	—	
合計	0	0	165	238	0	0	403	0				

3) 火山性地震の計数基準はB点振幅 $0.1 \mu\text{m}$ 以上でS-P時間3秒以内、火山性地震の種類は以下のとおりです。

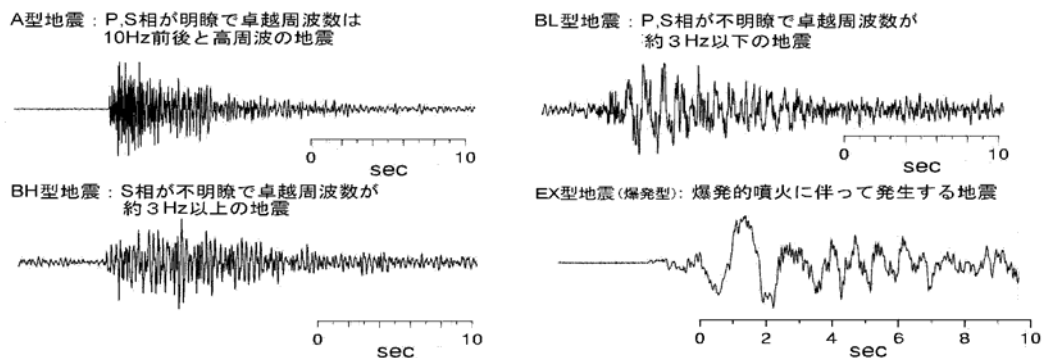


図5 浅間山 主に発生している火山性地震の特徴と波形例

4) 噴煙高度と噴煙量は定時観測（09 時・15 時）の日最大値です。噴煙量は以下の 7 階級で観測しています。

1：極めて少量 2：少量 3：中量 4：やや多量 5：多量 6：極めて多量
7：噴煙量 6 以上の大噴火。噴煙が山体を覆うぐらい多く、噴煙の高さは成層圏まで達したとみられる

5) 火映の強度は以下の 4 段階で観測しています。

0：肉眼では確認できず、高感度カメラのみ確認できる程度 1：肉眼でようやく認められる程度
2：肉眼で明らかに認められる程度 3：肉眼で非常に明るい色で異常に感じる程度
—：火映なし ×：視程不良（終日観測できなかった場合）